

「子どもを高める指導法の研究」 ～一人一実践の取り組みを通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

- ・一人一実践（年間7回）
- ・国語力の向上について（年間3回）
- ・食教育について（年間1回）

2 研究の基本的な考え方

- ・事例研究型である。（仮説を立て、検証する「仮説－検証」型の研究ではない）

3 研究の具体的方法

- ・基本的には、低・中・高で一回ずつ、授業を公開し、事後研究会を行う。全員で参観できない授業については、実践を発表し、お互いに学び合う。
- ・授業内容は、有益なのでみんなに広めたい指導法や内容、または、自分の得意とする指導法や内容が含まれるものとする。
- ・国語力の向上については、年度初めに、実態調査を行って、課題点や解決策を話し合い、共通理解する。読書活動を充実させるために学年ごとに「お薦めの本リスト」を作成する。また、指導主事を招聘して、学習会を行う。そして年度末にその成果を確認する。
- ・食教育については、年間指導計画を実践し、見直しをする。また、児童の実態や好き嫌いをなくす指導について学ぶ。

4 国語力向上（豊かな言語環境づくり）の具体的取り組み内容について

（5月に行った実態調査の結果を受けて決定）

（1）気持ちのよい、あいさつ・言葉づかいについて

- ・児童会のあいさつ運動をとおして指導を行う。
- ・児童の職員室への出入りについて、態度や礼儀、あいさつや言葉づかいについて同一步調で指導していく。
- ・日常の言葉づかいについて、その場その場に応じて同一步調で指導していく。

（2）読書習慣を身につけるための読書活動について

- ・業前の朝読書の取り組みを通して行う。（たてわり読書、高→低だけでなく低→高も）
- ・図書委員会主催の図書集会などの活動を行う。
- ・親子読書に取り組む。
- ・「お薦めの本」リストカードを学年ごとに作成する。
- ・いつでも本が読めるよう、机の中などに本を1冊は用意しておく。

（3）話す・聞く力の育成について

- ・各学年の発達段階に応じた、授業中の学習規律（発言の仕方や聞き方、話し合いの仕方）などを指導していく。

- ・国語の「話すこと・聞くこと」の単元を通して、継続した指導を行う。
- ・スピーチタイム（朝の会や帰りの会、国語の時間など）を設け、話す機会を多くとる。

II 成果と課題

- 広いテーマだったので、取り組みやすい研究ができた。
- 一人ひとりの実践を通して、子どもを高める指導法の研究ができた。
- 職員一人ひとりの様々な教育活動を通じて、子どもたちの知・徳・体に関する力が高められた。
- 素材そのものが素晴らしい価値をもつものを、授業者が探し出し、創意工夫した授業が多く見られた。
- それぞれの授業に教師の思いや児童の実態が反映されており、いろいろな授業を参観する中で、今後の指導の参考になった。
- △できれば、全員の先生方の「生」の授業を見たかった。
- △授業研究のときに指導主事を招聘して、指導してもらってもよかった。

III 成果物

- 1 第1学年 道徳授業案 「わがままとしんせつ はしのうえのおおかみ」
・動物の掲示物、ワークシート
- 2 第2学年 国語科授業案 「話すこと・聞くこと ともこさんはどこかな」
・ワークシート
- 3 第3学年 算数科授業案 「あまりのあるわり算」
・レジデンステスト、ワークシート
- 4 第4学年 体育科授業案 「基本の運動（体づくり運動）」
・ワークシート
- 5 第5学年 道徳授業案 「命の大切さについて 明日もまたいきていこう」
『明日もまたいきていこう』横山友美佳 著より
・ワークシート
- 6 第6学年 道徳授業案 「かけがいのない家族 ～ママからの伝言～」
『ゆりちかへ』テレニン晃子 著より
・ワークシート
- 7 第6学年 国語科授業案 「“里の秋”を読み解く」
・ワークシート
- 8 「お薦めの本」リスト 各学年20冊
- 9 国語力に関する児童の実態調査のためのアンケート

(研究主任 高野恵美子)